

第三者意見



EY新日本有限責任監査法人
CCaSS (気候変動・サステナビリティ・サービス)事業部
エグゼクティブディレクター

山口 岳志

本レポートを拝読し、日鉄エンジニアリング(株)が創立20周年という節目に、サステナビリティ経営を次の段階へ進化させていることを強く感じました。中期経営計画の最終年度であると同時に、初めてパーパスと2035年を見据えた長期ビジョンを策定した点は大きな前進です。「未来に、かたちを。社会に、力を。」というパーパスは、培ってきたエンジニアリングの強みを基盤に、社会課題の解決に向けた存在意義と長期的な価値創造の方向性を示す重要な指針と評価できます。

特集1では、成長するO&M・サービス事業を背景に、プラント操業DXに焦点が当てられています。EPC事業の枠を超え、施設完成後の操業・運営段

階で継続的に価値を提供する姿勢は、社会・産業インフラの持続可能性向上に貢献するものです。特に、AIやデータを活用する「Think Plant®」構想は、労働力人口の減少や熟練技術者不足への対応に加え、安全性・生産性の向上と顧客価値の高度化につながる可能性を有し、新たな競争優位の構築を示す取り組みと考えます。

特集2のSTEAM教育プログラム「情熱・先端Mission-E」にも注目しました。10年以上にわたる次世代育成は、社会貢献にとどまらず、未来の技術人材の育成と科学技術への関心醸成につながっています。短期的な成果だけでは測れない長期的な社会インパクトを見据え、人的資本と社会関係資本の双

方を育む活動として継続している点を評価します。

環境面では、データ編でScope3排出量の開示を開始したことを高く評価します。サプライチェーン全体の排出量把握は脱炭素経営に不可欠であり、Scope1・2に加えてScope3を可視化したことは、気候変動対応が新たな段階に入ったことを示します。今後、算定精度を継続的に高め、削減目標や移行計画との連携を深めることで、より実効性の高い脱炭素戦略へ発展することを期待します。

貴社は「脱炭素化」「資源循環」「レジリエンス」という社会課題に対し、単なる理念提示ではなく、社会実装を通じて価値を創出してきました。今後は、今回策定したパーパスと長期ビジョンを起点として、財務価値と社会価値の統合的な創出をどのように実現していくかが重要になります。また、各種目標の進捗や達成状況については、その背景や成功要因、次なる目標への考え方を併せて示すことで、取り組みの実効性や継続的な改善姿勢がより明確になるでしょう。本レポートで示された方向性が具体的な成果へと結実し、持続可能な社会の実現に向けた企業価値向上の取り組みとしてさらに発展していくことを期待します。